



# 美豆だより 特別号

平成26年12月11日  
京都市立美豆小学校  
校長 袖岡 良彦



前期学校アンケートには、多くの保護者の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。遅くなりましたが、ここにその結果を報告させていただきます。

学校アンケートの結果は、本年度の取組の経過とともに、「学校運営協議会」にて報告させていただきました。協議会では本校の様子を分析するとともに、課題についてのご示唆や解決に向けてのご意見をいただきました。本校としては、今年度前半の取組を見直し、今後の取組に生かしていきたいと考えています。

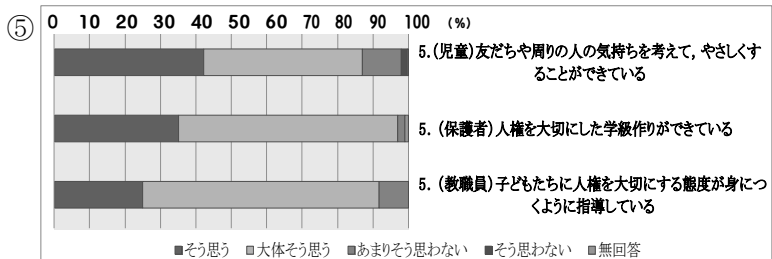
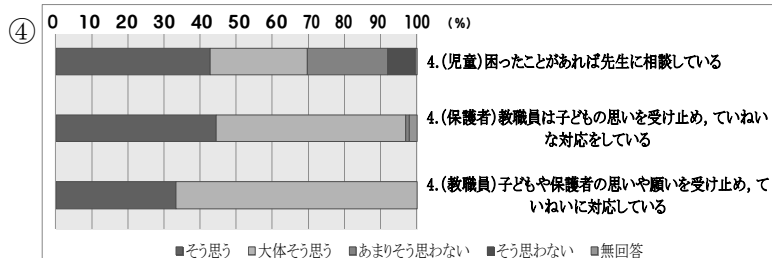
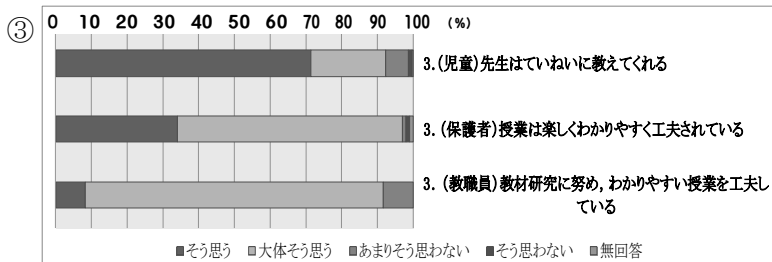
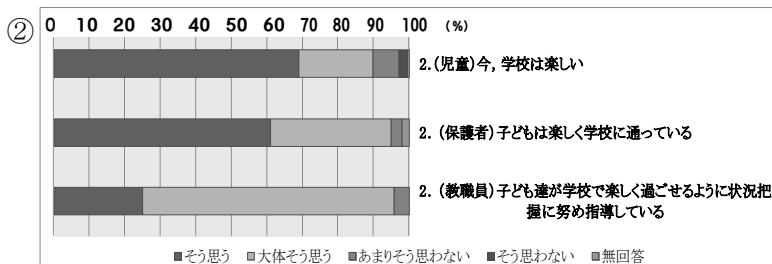
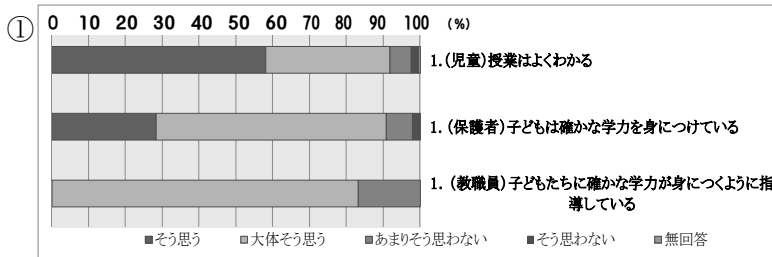
## 1. 実施アンケート

- ① 児童アンケート(全児童対象) 実施期間 7月15日～22日
- ② 保護者アンケート(保護者対象) 実施期間 7月15日～22日(回答数273名)
- ③ 教職員アンケート

## 2. アンケート結果と考察

上記アンケート調査の結果を報告します。3者対象のアンケートを、関連する項目ごとにグラフで比較しました。

グラフは、全体を100パーセントとし、左から順に、「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「無回答」の割合を示しています。



## 【学力向上に向けて】

### ◇学力の定着・向上

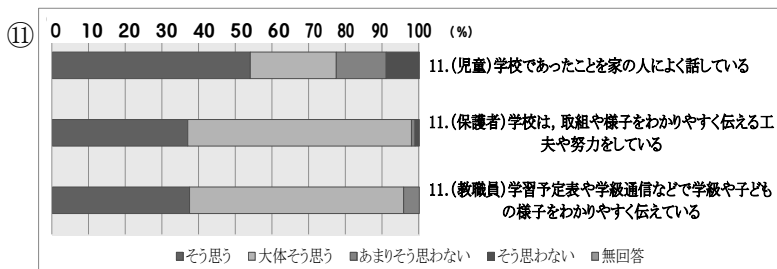
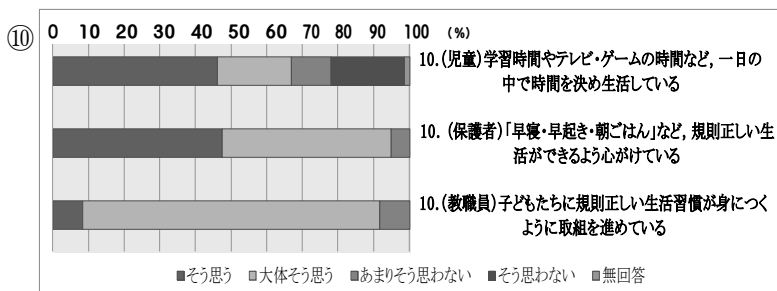
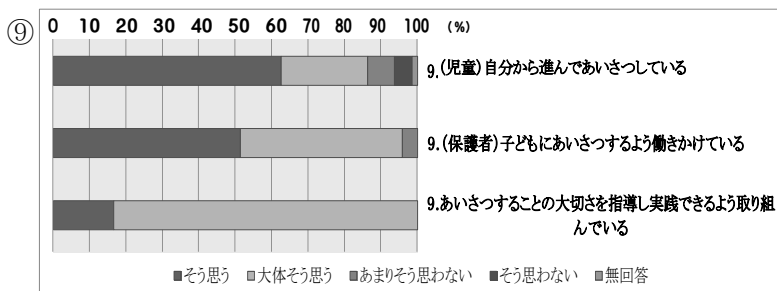
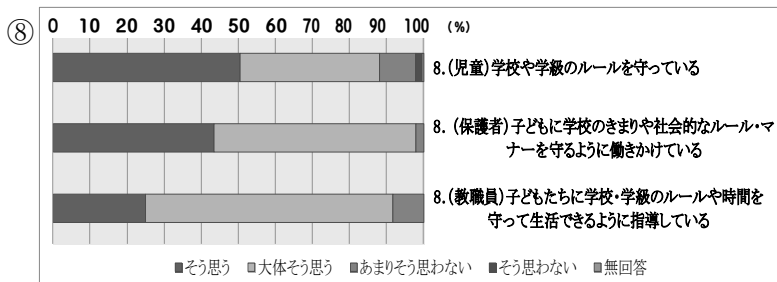
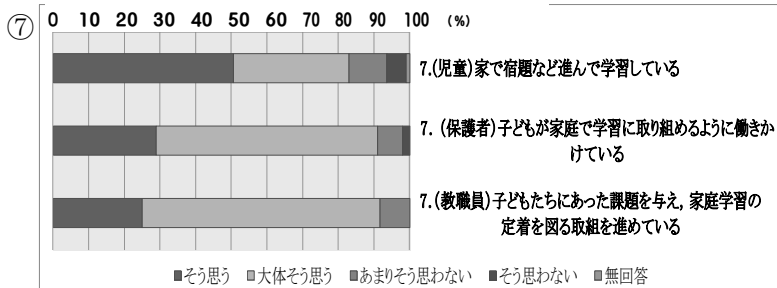
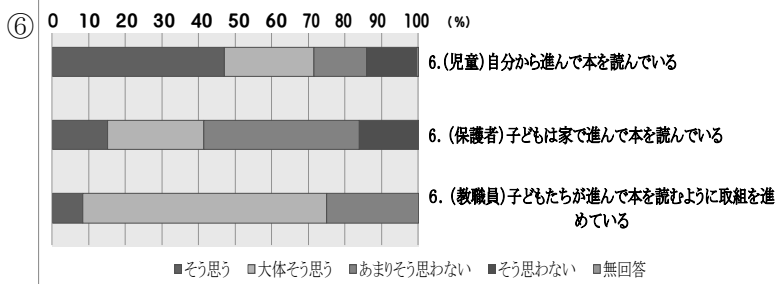
①の「授業理解」と③の「学習指導」の評価では、ともに「そう思う」の数値が昨年度より微増しています。児童・保護者が「そう思う」と言い切れるのは、学力の定着・向上に実感があるからだと言えます。しかし、①③ともに、児童の「そう思う」の数値が高く「大体そう思う」が低いのに対し、保護者の「そう思う」の数値が低く「大体そう思う」が高いという逆転現象が起こっています。保護者の方にも子どもたちの学力の定着・向上をさらに実感していただけるような発信を心がけていきます。

### ◇言語能力・読解力を支える読書習慣

「読解力」「言語能力」の向上には、読書習慣をつけることが不可欠だと考えます。学校では、机の中に今読んでいる本を入れておき、きらっとタイムやプリント等の課題が早く終わった児童がすぐに読書ができる環境づくりをしており、子どもたちにも定着しています。また、図書館のビフォーアフターが終了し、児童の知的欲求を満足させる環境が整いました。⑥の問いについて、児童の「あまりそう思わない」が昨年より低くなっているのもうなづけます。しかし、依然「進んで本を読んでいる」とする児童が3割程度存在します。児童の「読解力」「言語能力」を支える読書習慣の定着に向けた取組を進めていきます。

### ◇家庭学習の充実に向けた連携

家庭学習の習慣化は学力定着においてとても重要な要素です。⑦の家庭学習に関する問いでは教職員の「大体そう思う」が前年より10ポイント増、保護者の「そう思う」が12ポイント増と大人からの積極的なはたらきかけが増えました。前年度は保護者のはたらきかけの意識に比べて児童の積極性の数値が低かったのですが、本年度はほぼ同率となっています。5・6年生のジョイントプログ [右ページへ]



[左ページの続き] ラムで学力向上の兆しがみえた要因であると言えます。家庭と学校が連携して、共に家庭学習の重要性を認識し、子どもに働きかけていくことが大切だと考えます。

## ◇テレビやゲームの時間による他の時間の圧迫

⑩の問いでは、児童の「そう思わない」が21%、「あまりそう思わない」を合わせると30%を超えています。「そう思わない」の数値が昨年度より減少していたり、「そう思う」「大体そう思う」が微増であったりとよい兆しは見えるものの、依然として改善が必要な状態です。また、保護者や教職員との意識の違いも見られます。

家庭学習の時間や家族と接する大切な時間が、テレビやゲームに奪われています。テレビやゲームの時間を決めて家庭学習や家族団らんの時間を損なわないようにしてください。

## 【生活の様子から】

### ◇学校の教育活動の様子を発信

⑪の問いでは、保護者の「そう思う」が昨年度より10ポイント増加しています。この増加率は、②の問い「子どもは学校に楽しく通っている(保護者)」での「そう思う」の増加率と同じです。学校では、教育活動の様子を発信する手段として学校ホームページによる記事の更新を心がけています。現時点で昨年度の更新数に追いつくかという学年もあり、全教職員が子どもの様子や学校としての考えなどを積極的に発信しようとしています。それらの情報発信により、保護者の皆様が子どもの様子・学校の様子を知ることによって、安心して子どもたちを通わせていただいているのではないかと考えます。

### ◇道徳の時間を中心とした規範意識の確立

⑧の問いで、児童と保護者の「そう思う」の数値が微増し、逆に児童の「そう思わない」が微減しています。規範意識向上の兆しと考えられます。しかし、休み時間や放課後等担任の目から離れた場面において、まだまだ粘り強く育てていかなければならない姿も見られます。本校学校教育目標にもあるように規範意識の確立・「まもる子」を育てることは、本校の教育における重点項目です。本年度より、道徳教育を中心に規範意識の確立、互いに高め合える集団作り、自己有用感をもつこと等の指導を行っています。道徳教育のよりよい進め方について、さらに研鑽を重ね、「まもる子」の育成に努めます。

美豆小ホームページも  
ご覧ください。

美豆小学校HP QRコード



### 3. 分析を終えて

本校では、「道徳の時間」を中心に、学習集団としての規律や協働活動に重点をおいて指導にあたっています。人との関わりを重視し、人権意識や自己有用感を高め、生きる力としての道徳的実践力を養うことを目指しています。そうすることでお互いを認め合い、高め合える集団となり、学力向上にも相乗効果があると考えています。アンケート結果にも表れているように、保護者の方々や地域の方々に支えられ、子どもたちはよりよい姿を見せつつあります。道徳教育を柱に、子どもたちの学習集団としての高まりや規範意識の確立を育てていきます。

分析を終え、そこから見えてきたこと、すべきことを以下のようにまとめました。今後も学校・家庭・地域が一丸となって子どもの健やかな成長を見守っていきたいと思いますのでご協力よろしくお願いします。

- ・近年、高学年児童が、下級生の手本となる集団の姿を見せている。下級生がそれらをしっかりと受け止め、よい伝統として受け継いでいる。
- ・家庭学習や読書の時間を確保する指導を行う。家庭と学校が同じ視点で指導できるよう連携を図る。
- ・ぐんぐんタイムや少人数学習の充実を図り、個にあった指導により、「わかった」「できた」と感じられる子どもを増やす。
- ・子どもの学習集団としての高まり、規範意識の確立に向けて、授業研究等で「道徳の時間」の充実を図る。
- ・それぞれの問いにおいて、教職員が自信をもって「そう思う」と答えられる指導を心がける。

### 4. 「学校運営協議会」による学校関係者評価（外部評価）

学校評価に関わる「各アンケートの結果と分析」や「本校の取組」を「学校運営協議会 理事会」に報告し、下記のようなご意見、評価をいただきました。

学校運営協議会 理事会  
平成26年10月23日



#### 【よりよい姿を休日・放課後でも】

- ・高学年がよい姿を見せるようになってきた。あいさつや下級生に対する接し方等さすが高学年と思えることは嬉しく思う。各学年の児童も夏休みを過ぎ、運動会に向けて集団としての高まりを感じる。その一方、昨年度から言っていることであるが、あいさつをすることやきまりを守ること等学校で学んだ規範意識を教職員のもとから離れた時も発揮できるような指導が必要である。

#### 【ゲーム・携帯電話（スマホ）について】

- ・子どもの体力が落ちているのではないかと心配する。昔と比べて放課後のあそびが変わってきた。外で遊ぶことが減り、ゲームをする子が増えている。集団で遊んでいてもそれぞれゲーム機をもち、お互いがあまりかわりをもっていないように感じる。
- ・大人がスマホのゲームに夢中になっている姿を子どもが見ている。また、子どもをおとなしく待たせるためにゲーム機を与えているような姿も見られる。使い方や時間を守れるよう親子で話し合うことが大切である。
- ・インターネットに接続されるゲームがある。大人が仕組みを知ることが子どもを守ることにつながる。

# 学校・家庭・地域の連携・協働

